

2022年11月13日児童祝福礼拝

バルティマイのいやし

(マルコ10・46〜52)

きょうは児童祝福礼拝です。今からお話をします。日曜学校では「聖話」と呼んでいます。聖話のお話になります。

一、この人の名前は何？

この人の名前はバルティマイです。ですが、本当の名前ではありません。バルティマイとは、「テイマイの子」という意味です。お父さんがテイマイという名前だったのであります。周りの人たちが、この人のことを「バルティマイ」と呼んでいたのです。この人の名前のようになっていました。



この人は、目が見えないので働くことができません。いつも道端に座って、だれかがお金をくれるのを待っていました。

二、あなごのいやし

バルティマイさんは、目は見えませんでした。耳は良く聞こえました。ある日のことです。周りの音が、いつもと違います。大勢の足音が聞こえま

した。

「何だろう?」

近くにいる人に聞いてみました。

「あ、う、何かあるんですか?」

「イエス様がお通りになるんだよ!」

「イエス様ですって?」

バルティマイは思い出しました。イエス様は病気を治せるそう。目が見えない人も、見えるようにしていただきたそう。私もお願いしよう。イエス様は、必ず私の目を治してください。



三、大声で叫びました

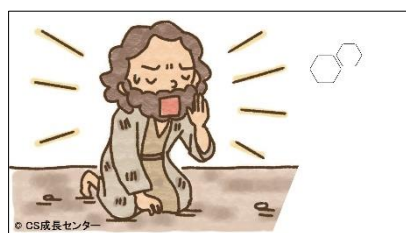
バルティマイは大声で叫びました。

「救い主イエス様、私をあわれんでください!」 「救い主イエス様、私をあわれんでください!」と、大きな声で叫ぶので、みんなは、「うるさい!」と言いました。それでもバルティマイは、ますます大きい声で叫びました。「イエス様、私をあわれんでください!」と。



四、立ち止まりました

すると、イエス様が立ち止まって、「あの人をここに連れてきなさい」とおっしゃいました。周りの人がバルティマイに言いました。「さあ、立ちなさい。イエス様が呼んでおられるよ!」



五、すぐに立ち上がりました

バルティマイはすぐに立ち上がりました。よ、これた上着を脱ぎ捨てると、うれしくて飛び跳ねるようにして、イエス様のおそばに行きました。



六、「目が見えるようになりましたので」

イエス様は、やさしくお尋ねになりました。「わたしに何をしてもいいの?」 イエス



様は、バルティマイが何を願ったのかを存じました。けれども、しっかり自分のことばで言うことによつて、イエス様を信じる信仰をはっきりさせようとなされたのです。バルティマイは顔を赤くして、お願いしました。「目が見えるようになりますように!」

七、すぐに見えるようになりました

「よろしい。さあ、行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです!」

イエスさまがそうおっしゃると、すぐに見えるようになりました。信じたとおりになったのです。その時からバルティマイは、イエス様に従う人になりました。

八、神様のことが見えるように

バルティマイさんは、目が見えるようになりました。バルティマイさんが見えるようになったのは、もう一つありました。それは何だったか?



たでしょうか。そうです。神様のことが見えるようになったのです。

九、イエス様と出会うことによって

どうして、神様が見えるようになったのでしょうか。イエスさまと出会ったからです。

イエス様は私たちと同じく人間でしたが、実は神様でした。バルティマイさんは、イエス様と出会うことによって、神様と出会いました。



十、いろいろなことが見えるように

すると、いろいろなことが見えるようになってきました。

それまでバルティマイさんは、「どうして私は目が見えないんだ(泣)不幸なんだ(泣)お父さんかお母さんが悪いことをしたからなのか(泣)それとも、おじいちゃんが悪いことをしたのか(泣)私が悪いことをしたのか(泣)」と思っていました。



十一、分かったこと

ところが、神様のことが見えるようになって分かりました。「そうか。神様のすばらしさが、私を通して現れるようになるためなんだ」と。

こうしてバルティマイさんはイエス様について行きました。イエス様の十二人の弟子たちには入っていませんが、お弟子さんの一人として、教会の一員になりました。

きょうは同仁学院の四人の子供たちの祝福を祈りましたが、皆さんはほかの子供たちが味わわない苦労されています。ですが、神様はすべてをご存じで、皆さんを特別に祝福してくださいと信じます。

